

連結及び単体業績概要

(平成23年3月期 第2四半期)

1. 連結第2四半期業績の概要

【単位:百万円、(%)】

項目	平成23年3月期 第2四半期	平成22年3月期 第2四半期	対前期比較	通期(23/3期) 予想
売上高	6,774 ( 100.0 )	6,439 ( 100.0 )	+ 335 ( 5.2 )	14,400
アニメーション事業	5,015 ( 74.0 )	4,525 ( 70.3 )	+ 489 ( 10.8 )	10,990
アミューズメント事業	1,759 ( 26.0 )	1,913 ( 29.7 )	△ 154 ( △ 8.1 )	3,410
営業利益	165 ( 2.4 )	△ 22 ( △ 0.3 )	+ 187 ( - )	560
経常利益	225 ( 3.3 )	20 ( 0.3 )	+ 205 ( 992.9 )	660
当期純利益	89 ( 1.3 )	△ 69 ( △ 1.1 )	+ 158 ( - )	360
1株当たり四半期 (当期)純利益	2円28銭	△1円70銭	3円98銭	9円21銭

- 当第2四半期末 連結子会社数 7社 持分法適用会社 2社
- 期中における連結範囲及び持分法の適用の異動  
連結 (新規) 1社 (除外) 0社 持分法 (新規) 0社 (除外) 0社

2. 単体第2四半期業績の概要

【単位:百万円、(%)】

項目	平成23年3月期 第2四半期	平成22年3月期 第2四半期	対前期比較	通期(23/3期) 予想
売上高	4,902 ( 100.0 )	4,372 ( 100.0 )	+ 530 ( 12.1 )	10,640
アニメーション部門	4,902 ( 100.0 )	4,372 ( 100.0 )	+ 530 ( 12.1 )	10,640
営業利益	60 ( 1.2 )	△ 46 ( △ 1.1 )	+ 107 ( - )	310
経常利益	151 ( 3.1 )	54 ( 1.2 )	+ 97 ( 180.6 )	460
当期純利益	57 ( 1.2 )	23 ( 0.5 )	+ 34 ( 144.6 )	300
1株当たり四半期 (当期)純利益	1円48銭	0円58銭	0円90銭	7円67銭

- (注) 1. 百万円未満を切り捨てて表示しております。  
2. 対前期比較の( )内は、比較増減率を記載しております。



# 平成23年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成22年10月27日

上場取引所 名

上場会社名 株式会社トムス・エンタテインメント  
 コード番号 3585 URL <http://www.tms-e.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 岡村 秀樹  
 問合せ先責任者 (役職名) 経理財務部長 (氏名) 岡山 仁

TEL 03-5332-8021

四半期報告書提出予定日 平成22年11月9日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成23年3月期第2四半期の連結業績(平成22年4月1日～平成22年9月30日)

### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年3月期第2四半期	6,774	5.2	165	—	225	992.9	89	—
22年3月期第2四半期	6,439	△9.6	△22	—	20	△91.4	△69	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年3月期第2四半期	2.28	—
22年3月期第2四半期	△1.70	—

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年3月期第2四半期	15,257	12,588	81.9	319.46
22年3月期	16,054	12,813	79.3	325.43

(参考) 自己資本 23年3月期第2四半期 12,489百万円 22年3月期 12,724百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年3月期	—	—	—	7.50	7.50
23年3月期	—	—	—	—	—
23年3月期(予想)	—	—	—	7.50	7.50

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 無

## 3. 平成23年3月期の連結業績予想(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	14,400	8.3	560	69.9	660	69.2	360	—	9.21

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 有

4. その他（詳細は、【添付資料】P.4「2.その他の情報」をご覧ください。）

- (1) 当四半期中における重要な子会社の異動 無  
新規 ―社（社名 ）、除外 ―社（社名 ）  
（注）当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。
- (2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 有  
（注）簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。
- (3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更  
① 会計基準等の改正に伴う変更 有  
② ①以外の変更 無  
（注）「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。
- (4) 発行済株式数（普通株式）
- |                     |          |             |          |             |
|---------------------|----------|-------------|----------|-------------|
| ① 期末発行済株式数（自己株式を含む） | 23年3月期2Q | 44,153,101株 | 22年3月期   | 44,153,101株 |
| ② 期末自己株式数           | 23年3月期2Q | 5,058,534株  | 22年3月期   | 5,052,570株  |
| ③ 期中平均株式数（四半期累計）    | 23年3月期2Q | 39,099,077株 | 22年3月期2Q | 40,716,636株 |

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

業績予想の前提となる条件等については、【添付資料】P.4「1.当四半期の連結業績等に関する定性的情報(3)連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報.....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報.....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報.....	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報.....	4
2. その他の情報.....	4
(1) 重要な子会社の異動の概要.....	4
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要.....	4
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要.....	4
(4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要.....	4
3. 四半期連結財務諸表.....	5
(1) 四半期連結貸借対照表.....	5
(2) 四半期連結損益計算書.....	7
(3) 継続企業の前提に関する注記.....	8
(4) セグメント情報.....	8
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記.....	10

## 1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、世界各国が協調しての景気刺激策や中国などアジアの活発な景気に支えられたものの、急激な円高の進行や継続的なデフレの影響を受け、企業業績は先行きへの不透明感が高まっております。個人消費についても、雇用環境の悪化や先行きへの不安感から生活防衛意識は依然高く、消費は低迷しました。

このような経済環境のもとで、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高は67億7千4百万円(前年同期比5.2%増)、営業利益は1億6千5百万円(前年同期は営業損失2千2百万円)、経常利益は2億2千5百万円(前年同期比992.9%増)、四半期純利益は8千9百万円(前年同期は四半期純損失6千9百万円)となりました。

売上高では、アニメーション事業においては、国内で当社も参画しているセガサミーグループによる「爆丸」プロジェクトのロイヤリティ収入や、「爆丸」の海外販売収入が好調を維持し、前年同期を大きく上回りました。一方、アミューズメント事業においては、前期4店舗、当期3店舗を閉鎖したこともあり前年同期を下回りました。以上の結果、売上高全社合計は前年同期を上回りました。

利益面では、アニメーション事業においては、海外販売、ビデオ化権販売、商品化権販売の利益が大きく貢献し、また、採算性を重視した制作作品数の絞り込みの効果が表れ、償却費も大きく減少しました。また、アミューズメント事業においては、赤字店舗閉鎖による利益率の向上やコスト削減の徹底をはかりました。

以上の結果、全社合計では営業利益の計上(前年同期は営業損失の計上)となり、経常利益については前年同期を大きく上回る結果となりました。

なお、平成22年8月27日付で「セガサミーホールディングス株式会社による株式会社サミーネットワークス、株式会社セガトイズ及び株式会社トムス・エンタテインメントの株式交換による完全子会社化に関するお知らせ」により公表しましたとおり、平成22年8月27日開催の取締役会において、セガサミーホールディングス株式会社と当社との間で、セガサミーホールディングス株式会社を株式交換完全親会社、当社を株式交換完全子会社とする株式交換を行うことを決議し、株式交換契約(以下、「本株式交換契約」と総称します)を締結しました。それに伴い、平成22年10月27日開催の臨時株主総会において、本株式交換契約の承認をうけております。また、本株式交換の効力発生日(平成22年12月1日予定)に先立ち、当社の普通株式は名古屋証券取引所市場第二部において、平成22年11月26日付で上場廃止(最終売買日は平成22年11月25日)となる予定です。

セグメントごとの業績は次のとおりであります。

#### ①アニメーション事業

アニメーション事業において、制作収入はTVシリーズの新作「ひめチェン!おとぎちっくアイドル リルぷりっ」、劇場映画「おまえうまそうだな」(10月公開)の制作などがあつたものの、TVシリーズ作品数の絞り込みなどにより、制作収入全体は19億2千5百万円、前年

同期比4.1%減少となりました。一方、ロイヤリティなどの販売収入は、国内における「爆丸」プロジェクトが好調に推移し、海外においても前期に引き続き「爆丸」が北米を中心にヒットを継続したこと受け、商品化権販売収入や海外販売収入の増大に寄与し、また、「アンパンマンとはじめよう!」「ルパン三世」TVスペシャルなどのビデオ販売収入が増加しました。これらにより、販売収入全体は30億8千9百万円、前年同期比22.7%増加となりました。

この結果、同事業全体の売上高は50億1千5百万円(前年同期比10.8%増)となり、同事業のセグメント利益は4億3千万円、前年同期比64.4%の大幅な増加となりました。

## ②アミューズメント事業

アミューズメント事業においては、当第2四半期累計期間に1店舗の開店(AGスクエア東大阪店)、3店舗の閉店(AGスクエア千葉鎌取店、AGスクエア赤羽店、AGスクエア一関店)を実施し、当第2四半期末の店舗数は19店舗となりました。アミューズメント業界全体が低迷する中、前期からの7店舗閉鎖の影響もあり、同事業全体の売上高は17億5千9百万円、前年同期比8.1%減少となったものの、赤字店舗閉鎖による利益率の向上、新規店の好調なすべり出しなどにより、同事業のセグメント利益は8千3百万円、前年同期比136.2%の大幅な増加となりました。

## (2) 連結財政状態に関する定性的情報

### (資産)

当第2四半期連結会計期間末における総資産は152億5千7百万円(前連結会計年度比7億9千6百万円の減少)となりました。主な減少の要因は、商品及び製品の減少3億5千万円、受取手形及び売掛金の減少2億9千4百万円、有価証券及び投資有価証券の減少3億4千2百万円によるものであります。

### (負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債は26億6千8百万円(前連結会計年度比5億7千2百万円の減少)となりました。主な減少の要因は、支払手形及び買掛金の減少2億8百万円、未払法人税等の減少1億2千4百万円によるものであります。

### (純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産は125億8千8百万円(前連結会計年度比2億2千4百万円の減少)となりました。主な減少の要因は、配当金の支払2億9千3百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

今後の見通しにつきまして現段階で入手可能な資料に基づき第3四半期以降の業績を検討した結果、平成22年4月30日に公表しました通期業績予想の修正をしております。内容につきましては、本日付「平成23年3月期通期(連結・個別)業績予想の修正に関するお知らせ」により公表しております。

2. その他の情報

(1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

① 棚卸資産の評価方法

当第2四半期連結会計期間末の棚卸高の算出に関しては、実地棚卸を省略し、前連結会計年度末の実地棚卸高を基礎として合理的な方法により算定する方法によっております。

また、棚卸資産の簿価切下げに関しては、収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価額を見積もり、簿価切下げを行う方法によっております。

② 固定資産の減価償却費の算定方法

固定資産の定率法を採用している資産につきましては、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

③ 繰延税金資産の回収可能性

繰延税金資産の回収可能性につきましては、前連結会計年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められる場合には、前連結会計年度決算において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっております。

前連結会計年度末以降に経営環境等、又は、一時差異等の発生状況に著しい変化が認められる場合には、前連結会計年度決算において使用した将来の業績予測等に当該著しい変化の影響を加味したものを利用する方法によっております。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

(資産除去債務に関する会計基準の適用)

第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しております。

これにより、売上総利益、営業利益及び経常利益が6,858千円、税金等調整前四半期純利益が24,327千円それぞれ減少しております。

(4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,443,674	3,640,625
受取手形及び売掛金	1,156,495	1,450,749
有価証券	1,399,117	1,194,393
商品及び製品	721,493	1,072,214
仕掛品	1,150,126	938,008
原材料及び貯蔵品	45,505	46,085
その他	226,674	320,250
貸倒引当金	△4,182	△9,473
流動資産合計	8,138,904	8,652,854
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,245,248	1,249,141
その他(純額)	1,617,894	1,685,258
有形固定資産合計	2,863,142	2,934,399
無形固定資産		
	407,694	279,307
投資その他の資産		
投資有価証券	1,303,206	1,850,780
その他	2,674,828	2,432,427
貸倒引当金	△129,920	△95,281
投資その他の資産合計	3,848,113	4,187,926
固定資産合計	7,118,951	7,401,633
資産合計	15,257,856	16,054,488
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,071,043	1,279,866
未払法人税等	115,541	239,764
未払消費税等	25,005	74,795
賞与引当金	110,208	82,555
役員賞与引当金	11,942	13,368
その他	677,820	907,889
流動負債合計	2,011,561	2,598,238
固定負債		
長期借入金	18,000	—
退職給付引当金	413,909	411,718
役員退職慰労引当金	118,100	107,185
資産除去債務	31,832	—
その他	75,458	124,284
固定負債合計	657,300	643,188
負債合計	2,668,862	3,241,426



(単位：千円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	8,816,866	8,816,866
資本剰余金	1,806,323	1,806,323
利益剰余金	3,526,725	3,730,709
自己株式	△1,676,483	△1,674,839
株主資本合計	12,473,431	12,679,059
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	17,203	46,701
為替換算調整勘定	△1,503	△1,383
評価・換算差額等合計	15,699	45,318
新株予約権	99,862	88,683
純資産合計	12,588,993	12,813,061
負債純資産合計	15,257,856	16,054,488

(2) 四半期連結損益計算書  
【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)
売上高	6,439,032	6,774,243
売上原価	5,618,213	5,410,067
売上総利益	820,818	1,364,176
販売費及び一般管理費	842,947	1,198,495
営業利益又は営業損失(△)	△22,128	165,681
営業外収益		
受取利息	31,255	23,972
受取配当金	31,135	34,827
その他	19,782	22,109
営業外収益合計	82,174	80,909
営業外費用		
長期前払費用償却	6,097	6,303
為替差損	28,604	13,206
その他	4,696	1,429
営業外費用合計	39,398	20,939
経常利益	20,646	225,651
特別利益		
固定資産売却益	1,496	—
貸倒引当金戻入額	9,707	6,842
売上配分金返還額	—	19,412
保証金戻入益	—	20,000
その他	1,512	882
特別利益合計	12,716	47,136
特別損失		
固定資産除却損	2,904	16,400
建物賃貸借契約解除に伴う損失	97,696	18,123
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	17,468
その他	3,050	7,910
特別損失合計	103,651	59,902
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△70,288	212,884
法人税、住民税及び事業税	24,772	113,542
過年度法人税等	16,010	—
法人税等調整額	△41,667	13,951
法人税等合計	△884	127,494
少数株主損益調整前四半期純利益	—	85,390
少数株主損失(△)	—	△3,880
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△69,403	89,270

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) セグメント情報

【事業の種類別セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年9月30日)

	アニメーション 事業 (千円)	アミューズメント 事業 (千円)	計 (千円)	消去又は 全社 (千円)	連結 (千円)
売上高					
(1)外部顧客に対する 売上高	4,525,490	1,913,541	6,439,032	—	6,439,032
(2)セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	(—)	—
計	4,525,490	1,913,541	6,439,032	(—)	6,439,032
営業利益又は営業損失(△)	261,971	35,229	297,201	(319,330)	△22,128

(注) 1 事業の区分は、内部管理上採用している区分によっている。

2 各事業の主な内容

- (1) アニメーション事業……………アニメーション作品の企画・制作・販売・配給および輸出
- (2) アミューズメント事業……………アミューズメント施設の企画・開発・運営

【海外売上高】

前第2四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年9月30日)

	北アメリカ	アジア	ヨーロッパ	その他の地域	計
I 海外売上高(千円)	424,459	143,858	72,696	46,034	687,048
II 連結売上高(千円)	—	—	—	—	6,439,032
III 連結売上高に占める 海外売上高の割合(%)	6.6	2.2	1.1	0.8	10.7

(注) 1 国又は地域の区分は地理的近接度によっている。

2 各区分に属する主な国又は地域

- (1) 北アメリカ……………アメリカ合衆国・カナダ
- (2) アジア……………台湾・インドネシア・韓国・タイ
- (3) ヨーロッパ……………イタリア・スペイン・フィンランド・フランス
- (4) その他の地域……………中南米・中東他

【セグメント情報】

(追加情報)

第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日)を適用しております。

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、アニメーション事業及びアミューズメント事業を営んでおり、業種別に区分された事業ごとに、当社及び当社の連結子会社が独立した経営単位として単一の事業を営んでおり、各社が主体的に各事業ごとの包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

従って、当社グループの構成単位は業種別のセグメントから構成されており、「アニメーション事業」及び「アミューズメント事業」の2つを報告セグメントとしております。

「アニメーション事業」は、アニメーション作品の企画・制作・販売・配給をしております。「アミューズメント事業」は、アミューズメント施設の企画・開発・運営をしております。

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第2四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント		合計
	アニメーション事業	アミューズメント事業	
売上高			
外部顧客への売上高	5,015,241	1,759,001	6,774,243
セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	—	—
計	5,015,241	1,759,001	6,774,243
セグメント利益	430,732	83,212	513,945

3 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

当第2四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年9月30日)

(単位:千円)

利 益	金 額
報告セグメント計	513,945
セグメント間取引消去	—
全社費用(注)	△348,263
四半期連結損益計算書の営業利益	165,681

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であり、提出会社の管理部門に係る費用であります。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。